

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 29 日現在

機関番号：34320

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22401045

研究課題名(和文) アラブの人間関係のグローバル展開 先発グローバリズムの研究

研究課題名(英文) The global status in Arab relationships; Studies in advanced globalization

研究代表者

奥野 克己 (OKUNO, KATSUMI)

京都文教大学・総合社会学部・教授

研究者番号：90250018

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,400,000円、(間接経費) 3,420,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、中東・アラブ世界に発した「先発グローバリズム」を支えている人的ネットワークの現状を解明することにあった。エジプト/スーダン、シリア/レバノン、モロッコという3地域をそれぞれハブとする各地に広がるネットワークの様態をフィールドワークによって明らかにし、人・モノ・情報の移動における人々のコミュニケーションのあり方、生きるスタイルの特徴を解明した。その人的ネットワークの析出は、現在展開する近代西洋発のグローバリズムの弊害をも含めた特徴を照射する結果となった。

研究成果の概要(英文)：This study was designed to elucidate the present status of human networks supporting the advanced globalization, which is originated in the Middle East and the Arab world. In our fieldworks, the manners of global networks based on 3 each regions, Egypt-Sudan, Syria-Lebanon, and Morocco are elucidated. We analyzed the characteristics of life and communication style in the movement of people, goods, and information. The result of those analyses is to irradiate the features of the globalization in modern Western development to expand the current world, included bad effects.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：アラブ 中東研究 ネットワーク 移動 グローバル

## 1. 研究開始当初の背景

先発グローバリズムの起点は7~8世紀の中東にあり、その後の広範な展開の内容を正確に理解するためには、人・モノ・情報の移動を実現させ、その移動を当たり前と考えてきた中東・アラブの人々のコミュニケーションのあり方、換言すれば生きるスタイルを解明する必要があるが、欧米や日本では残念ながらまだほとんど研究が進んでいない。そのため、中東・アラブの人々が何を移動させ、自らどのように動いてきたか、そして現在展開している近代西洋発のグローバリズム(本研究では「後発グローバリズム」と呼ぶ)と、いかに折り合いをつけているのか、という点を主要な分析枠組みに設定し、「生きるスタイル」の解明を念頭に置いて、中東・アラブ的な人的ネットワークの現状を析出する必要があった。

また、本研究は文化人類学と中東地域研究という2つの研究領域に関わることになった。まずメタ・サイエンスとしての文化人類学という理念に即しているという、先発グローバリズム研究は、近代西洋が境界的思考によって構築してきた人類社会のあり方についての認識方法に根本的な変更を迫る新たな認識方法を提示するという独創的な意義を有していた。

「世界の普遍化」あるいは「アメリカナイゼーション」とも呼ばれる現在の後発グローバリズムは経済・政治・余暇・娯楽等の面で激しいフローを示し、多くの社会問題を生み出している。しかもA・アパデュライは「脱領土性」の重要性を訴え、B・アンダーソンは国民国家を「想像された共同体」だと論じた。こうした研究により、領土と国民と政府という近代を支えた三本柱は乗り越えられるべき仮想の存在であることが明らかになったのである。しかし一方でグローバリズムの進展にもかかわらず、国民の一体性と均質性がますます強化されて人々の相互拘束が

進む状況と、仮想のはずの実体の人々の認識のより深い部分で領域化作用を促している状況は少しも変わっていなかったのである。

本研究は後発グローバリズムに先発グローバリズムを照射することで、たとえば「グローカリゼーション」といった苦肉の概念に逃げ込むしかないこうした近代知を抱え込んだジレンマからの脱出を可能にする。A・アパデュライが「現代世界のグローバル展開はスケープ(地景・風景)のようなものでしか捉えられない」と主張するのに対して、本研究はグローバル展開のもう一つの形態を人々の実際の生きた姿で捉え、「西欧近代」に拘束された視野には入ってこなかった別種のグローバリズムの存在を提示することになった。

つぎに、中東地域研究における本研究の特色は、「地域」をこれまでのように地理的な固定領域としてではなく、人・モノ・情報が自由に流通する範囲として動的に捉えることにあった。したがって、中東という地域は原理上世界中どこに存在してもおかしくないという前提に立つこととなった。

以上のような学問背景、研究上の関心から本プロジェクトは開始されたのである。

## 2. 研究の目的

本研究は中東・アラブ世界に発した「先発グローバリズム」を支えている人的ネットワークの現状を解明することを目的とした。「先発グローバリズム」という語は、異なる文化背景をもつ人々が頻繁な移動を通じて日常的に接触しあい、三大陸にまたがって共存と融合をはたしてきた千年以上に及ぶ多文化混淆状況を意味し、近年議論されている西欧発のグローバリズム(後発)と区別するための用語である。「先発グローバリズム」のシステムの究明が、「後発グローバリズム」の猛威を前にして有効な診断と処方箋を見出せないでいる人文・社会科学に新たな突破

口を提供できることを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究は、エジプト/スーダン、シリア/レバノン、モロッコという3地域をそれぞれハブとするネットワークのグローバル展開をフィールドワークによって明らかにした。「先発グローバリズム」について、その人的なネットワークの展開をヌビア人、コプト・キリスト教徒、アンダルシア音楽家、レバノン・シリア商人の活動において析出を試みた。調査方法は、これらの人々への聞き込みと観察であった。

エジプト/スーダンを起点としたヌビア人とコプト教徒の移民・出稼ぎについては奥野が担当し、モロッコを起点としたアンダルシア音楽家については堀内が、レバノンおよびシリアを起点としたレバノン・シリア商人については宇野が担当した。「広域」中東アラブの展開として、トルコおよびギリシャ北部、フランスにおける調査は3人が共同して調査にあたった。また、奥野はオーストラリアのコプト移民の調査を行い、アルゼンチンにおけるレバノン系移民については奥野と宇野が共同で調査を行った。

### 4. 研究成果

先発グローバリズムの輪郭は、本プロジェクト以前の研究成果から見えていたが、その様態をより鮮明にする必要があった。そのため、本研究は先発グローバリズムの特徴を「多点拡散・連携型」と想定し、一方後発グローバリズムを「一点集中・完結型」と想定し、知力・財力・武力といった権力作用のあり方の対照性を導出することを目指した。結果、「研究の方法」で述べた各地域におけるフィールドワークによって具体的な事例、資料を得ることができた。それらの事例、資料の分析によって以下の解明に結びついた。

これまで文化人類学は「閉じた」「かたま

り状の」「小さな」「境界をもつ」社会をおもな研究対象としてきた。しかし、本研究が明らかにしたのは「開かれた」「流動的な」「地球規模の」「越境的な」人の営みであった。この知見は、「属地主義」から「属人主義」へと基本的な発想の転換を促すものであり、定住を是とし、帰属を善とする近代のイデオロギーから脱する可能性を示しており、移動者の視点に立てば世の中はまったく別の姿に見えることに気づくに至ったのである。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### [雑誌論文](計7件)

堀内正樹、世界のつながり方に関する覚え書き、成蹊大学文学部紀要、査読有、49巻、2014、pp.61 - 85

堀内正樹、処世法としての「非境界」、民博通信、査読無、144巻、2014、pp.18 - 19

堀内正樹、開かれた「民族」- ニューカレドニアのアラブ人村、成蹊大学文学部紀要、査読有、47巻、2012、pp.95 - 115

堀内正樹、「非中心性」と「非拘束性」、民博通信、査読無、139巻、2012、pp.8-9

奥野克己、世界の農業は今 - エジプトの農業とナイル川、そして暮らし、農業、査読無、1551号、2011、pp.55 - 60

宇野昌樹、シリアのクルド人 - 「辺境」に生きる人々、専修大学人文科学研究月報、査読無、245号、2010、pp.1 - 14

#### [学会発表](計11件)

宇野昌樹、アラブの「春」とイスラエルの核、慶応義塾大学東アジア研究所、2012年6月29日、広島市立大学広島平和研究所

#### [図書](計5件)

宇野昌樹、慶応義塾大学東アジア研究所、アジアの「核」と私たち - フクシマをみつめながら、2014、356(共著、pp.231-263)

宇野昌樹、明石書店、シリア・レバノンを知るための64章、2013、440(共著、pp.128-133)

奥野克己、明石書店、現代アラブを知るための60章、2012、385(共著、pp.63 - 70)

宇野昌樹、御茶の水書房、ひとつのアジア共同体を目指して、2012、261(共著、pp.217-237)

奥野克己、時潮社、世界の食に学ぶ - 国

際化の比較食文化論、2011、230(共著、  
pp.78 - 98)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

奥野 克己 (OKUNO, Katsumi)  
京都文教大学・総合社会学部・教授  
研究者番号：90250018

(2) 研究分担者

堀内 正樹 (HORIUCHI, Masaki)  
成蹊大学・文学部・教授  
研究者番号：10209281

宇野 昌樹 (UNO, Masaki)  
広島市立大学・国際学部・教授  
研究者番号：40347612